

特別活動部会 研究の構想

令和3年度～

I 研究主題

学級活動を通して身に付けるべき資質・能力を育成するための指導はどうあればよいか。

II 主題設定の趣旨

特別活動は、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせ、「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」ことを通して、資質・能力を育むことを目指す教育活動である。

特別活動で育成を目指す資質・能力とは以下の三つである。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

上記の資質・能力を育成するためには、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点が重要であり、学習過程においても大きな意味をもつ。また、生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現によって資質・能力を偏りなく育成することができ、各活動・学校行事の学習過程において授業や指導の工夫改善を行うことで質の高い学びを実現し、中学校卒業後も能動的に学び続けることが可能となる。

学級活動は、学校生活において最も基礎的な集団である学級を基盤とした活動である。日々の生活を共にする中で、生徒は、一人一人の意見や意思は多様であることを知り、時には葛藤や対立を経験する。こうした中で、自ら規律ある生活を送るために、様々な課題を見だし、課題の解決に向けて話し合い、合意形成を図って決まったことに対して協力して実践したり、意思決定したことについて粘り強く実践したりする。

そこで、これまでの研究の成果を踏まえて、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせ、学級活動における「問題の発見・確認」「解決方法等の話し合い」「解決方法の決定」「決めたことの実践」「振り返り」といった一連の学習過程の中で、資質・能力の育成を図りながら主題の解明に取り組んでいきたい。

III 研究のねらいと内容

1 研究のねらい

- (1) 学級における集団活動や自律的な生活を送ることの意義を理解し、話し合いの進め方やよりよい合意形成と意思決定の仕方、チームワークの重要性や役割分担の意義等について理解できるようにする。
- (2) 学級や自己の生活、人間関係をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 学級における集団活動を通して身に付けたことを生かして、人間関係をよりよく形成し、他者と協働して集団や自己の課題を解決するとともに、将来の生き方を描き、その実現に向けて、日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

2 研究内容

- (1) 指導計画を工夫する。
 - ・小学校の6年間を踏まえ、3年間の学校生活を見通した系統的、発展的な指導計画の充実
 - ・生徒が本質的な課題を見だし、議題を選定したり題材を設定したりして、解決に向けて話し合う活動の充実
 - ・カリキュラム・マネジメントの観点に立った、各教科や「特別の教科 道徳」等の指導との関連
 - ・キャリア教育の視点に立った指導の充実
- (2) 指導内容や指導方法を工夫する。
 - ・生徒の実態に応じた課題設定や学習形態、思考ツール等の工夫
 - ・話し合い活動を通じた合意形成と意思決定の仕方の指導
 - ・話し合いで決めたことの実践に向けた指導の推進
 - ・ガイダンスとカウンセリングを充実させた指導の推進
- (3) 評価を工夫する。
 - ・生徒の自己有用感や自己肯定感を高め、よさや可能性を伸ばす観点に立った、継続的で多面的・総合的な評価
 - ・学習過程を意識した、活動の振り返りと改善への工夫

特活

特別活動部会 令和5年度研究計画

I 研究主題

学級活動を通して身に付けるべき資質・能力を育成するための指導はどうあればよいか。
- 生徒が主体的に参加し、合意形成や意思決定を目指す話し合い活動を通して -

II 主題について

1 昨年度の実践から

昨年度は、学級活動において、生徒が主体的に参加し、合意形成や意思決定を目指す話し合い活動を通して、身に付けるべき資質・能力を育成するための指導はどうあればよいか、研究を進めてきた。その結果、次のような成果や課題が得られた。

- ・学級活動(1)において、事前アンケートの結果を分析し、生徒の実態に基づいた課題を設定することによって、生徒が課題を自分事として捉え、学級全体や班ごとの話し合いに積極的に参加できた。
- ・学級活動(2)(3)において、意思決定する中で、他者の意見に触れ、自分の考えを広げ、課題について多面的・多角的に考えるための教師の支援に工夫がみられた。
- ・学級活動(2)(3)において、意思決定を目指すだけでなく、決めたことを実践したり、さらなる課題の解決に取り組もうとする意欲を高めたりするために、意思決定した事柄について認め合ったり振り返ったりする活動を、教師が意図的・継続的に行っていく必要がある。
- ・合意形成を図る内容の学級活動(1)と意思決定を目指す内容の学級活動(2)(3)、それぞれの特質とその違いを明確にし、よく理解しておく必要がある。
- ・合意形成が生徒にとって納得したものになり、主体的に実践しようとするためには、合意形成の方法や話し合いの仕方についての教師の働きかけが大切である。

2 今年度の主題について

学級活動では、生徒が学級や学校の生活上の諸課題を見付け、その中から議題を決定し話し合い、合意形成したことに協働して実践したり、個々の生徒が直面する諸課題と向き合って自己を深く見つけ教師が設定した題材を把握し、意思決定して実践したりする。自主的、実践的な活動を通して、生徒は現在及び将来の自己と集団との関わりを理解し、健全な生活や社会づくりの実践力を高めていく。

学級や学校の課題を自分事として捉え、自分なりの意思をもって合意形成に臨んでこそ、合意形成したことに對して主体的に取り組もうという意欲をもつことにつながる。逆に、学級や学年の課題を自分事として捉えるということは、自分は、学級や学年の生活をよりよくするために何ができるかということを考え、意思をもって実践することでもある。

こうした点を大事にした活動の過程となるよう教師が計画的に指導することがあってこそ、合意形成を図る活動が、自主的・実践的なものになり得ると言える。

そこで、授業のねらいや目指す生徒の姿を踏まえながら、話し合い活動を通して生徒が自らの意思で課題を解決し、実践していくための教師の指導や関わりはどうあればよいかについて研究を行う。

3 主題解明に当たって

(1) 学級活動において資質・能力の育成を目指す活動は、「問題の発見・確認」、「解決方法等の話し合い」、「解決方法の決定」、「決めたことの実践」、「振り返り」といった学習過程の中で育まれる。

学級活動(1)では、生徒が見いだした学級や学校での生活上の課題について、一人一人の思いや願いを意見として出し合い、互いの意見の違いや多様な考えがあることを大切にしながら、学級としての考えや取組について合意形成しなければならない。

また、学級活動(2)(3)では、相手の意見を聞いて、自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりして、自分としての解決方法等を意思決定できるように指導することが求められる。

ここで述べた合意形成を図る内容の学級活動(1)と意思決定を目指す内容の学級活動(2)(3)は、いずれも学級活動における話し合いの場面が中核であり、学級活動のねらいに応じて、学習過程を工夫する必要がある。

(2) アンケートや実態調査の結果等に基づいて問題を明らかにしたり、他教科や学校行事に関連させたりするなど切実感のある議題選定や題材設定を工夫する。

Ⅲ 研究内容とその視点

1 指導計画の工夫

- (1) 学校の創意工夫を生かすとともに、学校や学級の実態や生徒の発達段階等を踏まえ、生徒による自主的、実践的な活動を助長する。
- (2) 内容相互、各教科、「特別の教科 道徳」及び総合的な学習の時間等の指導との関連を図る。
- (3) 小学校からの接続に配慮し、中学校入学当初を含め3年間の学校生活を見通した系統的、発展的なガイダンスを指導計画に位置付ける。
- (4) 学級活動が、生徒の学校生活における学習や生活の基盤である学級を単位として展開されることから、年間指導計画の作成に当たっては、学級経営、学年経営との関連を図る。

2 指導内容と指導方法の工夫

- (1) よりよい生活や人間関係を築き、自治的能力や主権者として積極的に社会参画する力を育成するための話し合い活動の充実
 - ・小学校6年間の経験で身に付けてきた話し合いのスキルやルールを把握し、それらを発展させるようにする。
 - ・主体的な話し合い活動にするために、事前指導の時間を確保し、学校生活と直結した、生徒にとって切実感のある議題等を決定する。学級や学年・学校全体として解決方法等について話し合い多様な意見を生かして合意形成を図る。
 - ・班長会議や係会議、諸調査等を活用して学校生活を振り返る機会を設け、生活をよりよくするための諸課題を生徒自身が見付けられるようにする。
 - ・教師の働きかけの方法やタイミング、話し合いの在り方を工夫し、合意形成に向かうための論点が焦点化できるようにする。
 - ・決めたことが実践できるように定期的に振り返り結果を分析し次の課題に生かすように指導する。
- (2) 学校生活への適応や人間関係形成のための指導の充実
 - ・生徒が学校や学級での生活に見通しをもって積極的に取り組めるよう、計画的、組織的に適切な情報を提供する。
 - ・よりよい生活を築くために、自己の問題に向き合って意思決定するための話し合い活動を適切に設定する。
 - ・中学校入学当初においては、小学校と連携して生徒の実態を把握した上で、個々の生徒が学校生活に適応できるように配慮し、生徒が希望や目標をもって生活できるよう工夫する。
 - ・家庭との連携を密にする。
- (3) キャリア教育の視点に立った指導の充実
 - ・生涯を通じて主体的に進路を選択できる力を養うために、小学校での学びを踏まえて、中学校入学から卒業までの3年間を見通した指導計画を作成し、継続した学習を進める。
 - ・自分の考えをまとめて意思決定したり、実践後に振り返ったりする活動を設定し、学ぶことや働くことの意義や将来の生き方について考えさせる。自分の学びを「キャリア・パスポート」等に蓄積するなど、自己のキャリア形成に生かすことができるようにする。

3 評価の工夫

- (1) 生徒一人一人のよさや可能性を生徒の学習過程から積極的に認め、特別活動で目指す資質・能力がどのように育まれているかについて、各個人の活動状況を見取り、評価する。
- (2) 活動の結果だけでなく、過程における生徒の努力や意欲等を積極的に認めたり、生徒のよさを多面的・総合的に評価したりする。
- (3) 生徒一人一人が、自らの学習状況を見通したり、振り返ったりすることによる自己評価や相互評価を適切に活用する。
- (4) 評価を通して教師が指導の改善を図り、より効果的な指導が行えるようにする。
- (5) 国立教育政策研究所発行の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（中学校 特別活動）を活用する。

Ⅳ 研究方法

- 1 生徒や学校、地域の実態に合わせた議題を設定し、研究主題に沿った授業実践と研究授業を行う。
- 2 各郡市、地区で持ち寄った実践事例に基づいて共同研究を進め、研究主題の解明を図る。
- 3 各郡市、地区の研究成果を集約し、次年度以降の研究に生かす。